

番 号	1 7	区 分	町指定文化財
種 別	無形民俗文化財	保 持 者	蘭民芸保存会
名 称	蘭のさいとろさし		
指定年月日	昭和48年4月18日		
所 在 地	南木曾町吾妻（蘭）		

概 要

さいとろさしは“さいとりさし”のことで、その名のとおり、竿にトリモチを付けて小鳥を捕まえることを言う。江戸時代、木曾谷には全部で58か所の巣山があり、うち南木曾町には10か所あって、鷹の保護をはかっていた。鷹は、将軍・大名等にとって当時最大の娯楽であった鷹狩に用いられるものであった。

鷹を飼育するためには餌となる小鳥が必要で、その小鳥を捕まえる仕草を芸能にしたのが“さいとろさし”であった。この芸能は各地にあるが、蘭のさいとろさしは他所の上半身の動きに重点を置く踊りと異なり、腰を中心とした下半身の動作におもむきをおいている。性的要素を多分に含んでいて昔からの姿をそのままに伝える踊りともいえるが、開放的な庶民生活が彷彿とさせる踊りでもある。祝いの席、特に結婚式などによく踊られる踊りである。

蘭のさいとろさしは、元来は一人踊りであった。昭和48年NHKの「ふるさとの歌祭り」に出演した際、現在の三人踊りに振り付けし直したが、当初の本スジは良く継承されている。

